

はーきゅりーず  
Mini Gallery



一人一人が役割を果たせて  
こそこのビッグプレー

独走のTOP!



チームに欠かすことのでき  
ないスタッフ

データ分析・トレーナー・栄養師  
外など、様々な場面で活躍中!



アメフトの醍醐味、ロングパス。  
プレイヤーの能力のみならず  
緻密なデータ分析が成功の鍵。

勝利への希望を乗せた  
ロングパス!



心強い味方の応援団!

雨・雪・負ケズ、風・二重負ケズ、  
いつもハークユリーズの試合に  
駆けつけ、力を与えてくれます。  
感謝!

大阪大学の文系学部は、その実力に比較して受験生等の評価が低いようです。今回アメフト部ハーキュリーズが初めて大学紹介のリーフレットを作成するに当たって、大学の公式案内にはない一点集中型のものにしよう、近代経済学分野において「西の代表」と評価の高い経済学部にもスポットを当てました。

経済財政諮問会議でもご活躍中の本間正明教授とアメフト部芦谷監督の対談内容を通じて“大阪大学ならではの魅力”の一端を感じてもらえれば幸いです。



INFORMATION

ハーキュリーズでは、阪大受験生をサポートすべく、2005年版受験生向け冊子(右)と新入生向け冊子を刊行します。

受験生向け冊子は、平成17年2月初旬から中旬にかけて高校に配布(無料)予定ですが、数に限りがありますので、1月20日までに高校単位で冊数をお申込み頂ければご希望にお応えします。(受験生個人からのお申込みは先着100名様までOK!)お申込みは、[info@gohercules.net](mailto:info@gohercules.net) まで。



presented by

宝塚校 スタディオン宝塚  
TEL:0797-83-6329  
【受付時間】午後2:00~午後9:00(日曜・祝日を除く)

石橋校 スタディオン石橋  
TEL:072-760-0326  
【受付時間】午後2:00~午後9:00(日曜・祝日を除く)

スタディオン宝塚・スタディオン石橋はハーキュリーズ提携教室です

ハーキュリーズの

大阪大学探訪



Vol.1

時代の流れを取り入れて発展する  
大阪大学ならではの魅力に迫る!

対談

経済財政諮問会議議員  
大阪大学大学院経済学研究科  
教授 本間正明先生



大阪大学体育会  
アメリカンフットボール部  
ハーキュリーズ監督 芦谷俊貴

Osaka Univ. American Football Team  
**HERCULES**  
URL: <http://www.gohercules.net>  
mailto: [info@gohercules.net](mailto:info@gohercules.net)

# 時代の流れを取り入れて発展する 大阪大学ならではの魅力に迫る！

社会の目まぐるしい変貌に伴い、学問においても新たに生み出される分野を次々と取り入れている大阪大学。質の高い教育を展開し、社会的成功を納められている方々を多数輩出し続けています。

それらの魅力を含めて、大阪大学本間正明教授とハーキュリーズの芦谷俊貴監督にお話を伺いました。



経済財政諮問会議の議員としてご活躍

**本間先生：** 2001年に構造改革を打ち出す小泉内閣が発足しました。同年、内閣府に経済財政諮問会議も設置され、私はその一員として重責を担っています。これは、あらゆる政策に対するアドバイスや提案を総理に対して行う役割。例えば、地方が決定すべきことは地方自らが決定できるように、自主財源を確保できる制度を整えたり、高齢少子化の中で、世代間の公平を図る社会保障の改革を行うなど、政策のあらゆる問題に取り組んでいます。設立から3年半ほどですが、これが今かなり日本を変えつつある状況です。

日本の経済政策分野をリード

**芦谷監督：** 諮問会議議員の構成メンバーにおいても、本間先生や東大の先生など学者の方が入っておられ、ご活躍されています。私は予備校を営んでいるのですが、他の予備校の関係者の中でも特に近代経済学という分野において「西の代表は大阪大学」と非常に評価が高いです。しかし、受験生や彼等の保護者の方には歴史の浅さからか、理解されない所がありますね。

**本間先生：** 歴史の古い大学は、大学の实力よりも評価されがちです。大阪大学は創立して、約50年。新しいということが、今の経済学部のプラスになっています。大学を創立する時に、とりわけ近代経済学だけに特化。経済学分野で文化勲章を受賞された経験のある、安井琢磨先生や森嶋道夫先生などが、阪大の経済学部や、社会経済研究所の教授を務められ、近代経済学のメッカとして、戦後トップの座を占めてきました。一方、大阪という地域の特性を反映した部分の魅力もあります。理論は理論として置いておくのではなく、それを現実の社会に適応させようという経済政策の分野を重視。例えば今日本で活躍しているエコノミスト、竹中大臣や、諮問会議議員の吉川教授、また日銀の政策委員である植田和男氏や、国際公共政策研究科の林敏彦先生など、今の



日本を動かしている主要な経済学者が全てこの経済学部に関係しています。そうそうたるメンバーが、大阪大学を舞台に活躍。日本の経済政策の分野をリードし続けています。そうした理論と政策のバランスのとれた学風が特長です。

また経済学部は定員が少ない少人数制ですが、卒業後成功されている方のパーセンテージは高いですね。松下の中村社長や神戸製鋼の犬伏社長など、経済界のトップも多いことから、学生の質も優れた大学であるといえます。入学して満足するという意味では、非常に稀少価値のある大学だと思いますね。

少人数のゼミにより、質の高い教育を展開

**本間先生：** 経済学部では、やる気のある学生を育てるために懸賞論文を実施しています。特賞は10万円で入賞は5万円。本間ゼミでは、金額全体の半分を目標にしています。去年も達成し、20万ほど稼ぎました(笑)。ゼミは本体のゼミとサブゼミがあります。サブゼミでは、4年生が3年生を指導する形態。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、分析能力を身につけていきます。この3要素は社会に出た時に必要ですから、欠けている部分を意識して行うように指導しています。

**芦谷監督：** 少人数制のゼミということですが、先生の研究テーマから離れていてもしっかりと指導できるメリットもあるわけですね。

**本間先生：** 生徒の関心のあるテーマで3~4人のグループを組んで課題に取り組みます。少人数でスタッフが充実しているため、学生一人に対する教育の質が高いといえますね。非常に恵まれた環境が整っています。先生方にも余裕がありますので、生徒の関心を閉じ込めることはありません。自分のやりたい研究を進めることができます。私の専門である、税制や社会保障などをテーマにする生徒もいれば、USJの経済効果、また雇用や失業問題を分析する生徒など様々です。

**芦谷監督：** 経済学部という分野のなかで、興味を持った分野に幅を広げていくことは、学校全体においてもいえることだと思います。最近開設した生命機能研究科や情報科学の研究科には、工学部や理学部、基礎工学、また別の大学からも人が集まっています。職業柄、様々な学校案内の資料を見ますが、学問領域を広げて、人を呼ぶというダイナミズムを一番感じられるのが、大阪大学だと思います。



**本間先生：** そうですね。そこは大阪の気風というものがあるのでしょうか。大阪はかつての「でっちゃん」に象徴されるように、新しい人を呼び込むことで社会を活性化させてきた歴史があります。



それは大阪大学にも遺伝子として残っていると思いますね。歴史が浅いということは、評判という面ではハンデを背負っていますが、大学を革新させていくことにはプラス。理科系と文科系で競合しながら、変化の状況に合わせて新しいものを作っていくというように、大阪大学はあらゆる領域のなかで活気があり、権威主義的ではないリベラルな新しいものを生み出すエネルギーがあります。

ハーキュリーズと地域貢献

**芦谷監督：** 私は、近い将来、近所の子供達に旗を使ったフラッグフットボールを教えようと考えています。アメフトと同じように分業制なので、毎回生徒の役割を変え、社会も様々な役割の人によって成り立っているということを学ばせるのが狙いです。これは教育的にも効果があると唱えている人がいます。ハーキュリーズの部員にも子供達を指導させることを教育目的の一つとし、子供と部員の教育のコレボレートを実現させたいですね。NPOとして、そのような社会貢献ができたと思っています。

**本間先生：** 学校教育と地域の結びつきが薄くなってきているので、そうした地に足の着いた深い関係を構築していくことは大切だと思います。以前私は、イギリスのウォリックに住んでいたことがあります。当時小学生だった上の息子がチェスを覚え、地域の中で行われるチェスラダーというトーナメントに参加したりしていました。そこでチェスに関わったのがNPOの人。大学においても、こうした地域との交流による関係を築くことが大切な時期だといえます。生活体験として繋がりを持つことで、保護者を含めた阪大ファンも自然と増えていくのではないのでしょうか。キャンパスが空いている時は音楽会をするなど、積極的に地域に解放していくことが大切ですね。

**芦谷監督：** 阪大は、吹田や豊中にキャンパスがあり、ここが地元であるというイメージが定着しない側面があります。こちらから何かをしかけて、地域と交流していくことが重要だといえますね。

アメリカンフットボールとの関わり

**本間先生：** アメリカンフットボールは、アメリカの社会を反映させたようなスポーツで、私も興味を持っています。私の娘がハーキュリーズのマネージャーをしていたこともあり、副学長時代には、西宮(球場・球技場)までよく足を運びました。また娘はアメフトの部員である男子学生と結婚しましたので、ファミリーのような繋がりもあります。監督も新しく変わられたということで、今後の活躍が楽しみです。

阪大を目指す受験生に一言

**本間先生：** 学生の潜在する能力を存分に開花してくれるので、入学して後悔しない大学といえます。私もこの大学で学んだ卒業生であり、現在は教授として関わっています。その感謝の気持ちを若い世代に引き継ぐ責任感を持っていますので、ぜひ一緒に良いキャンパスライフを過ごしましょう。

**芦谷監督：** 今の世の中に対応できる経済学という意味で、大阪大学の経済学部は、西日本で一番です。時代の最先端を学べる学校なので「社会に役立てたい」、「国際的に活躍したい」という思いがあれば、まさに損のない大学。またアメリカの政治を凝縮したようなアメリカンフットボールは、アメリカを知る手がかりにもなります。合格したら、何らかの形でアメフトにも携わってもらいたいですね。

2004年6月9日 大阪大学待兼山会館にて  
(聞き手 フリーライター田中祥子)

<プロフィール>

**本間正明先生**  
大阪大学経済学部卒。大阪大学大学院経済学研究科教授。また経済財政諮問会議議員をはじめ、重要な政府の会議・審議会などでも幅広くご活躍されている。

**芦谷俊貴監督**  
大阪大学基礎工学部生物工学科卒。学習塾を営むスタディオシエル株式会社の代表取締役を務める。大阪大学体育会アメリカンフットボール部ハーキュリーズの監督。